

2年 Unit 2 Food Travels around the World

東京書籍

本時のねらい

単元のイントロダクションとして、①食文化の歴史や変化について関心を持ち、②ターゲット構文である接続詞 when や because を用いた文をはじめ、料理にまつわる英文の音声と文字と意味を結びつけることを主なねらいとする。

デジタル教科書 (+教材) 活用のポイント

ユニットの【資料映像】と【Preview 動画】、各パートの【コンテンツ】をフルに活用して、さまざまなスピーキング・リスニングトレーニングを行う。

●学習活動 (学習形態, 学習活動内容)

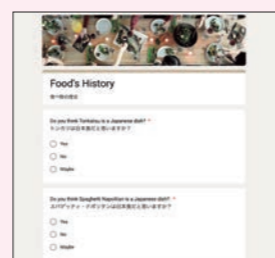
1. テーマ導入

Unit 2 の資料映像 (Food's History) を視聴し、食文化の歴史への関心を喚起する。映像を楽しみつつ、注目点を絞って大意をつかむことを目指す。“Do you think Tonkatsu is a Japanese dish?” などの質問を投げかけておくが良い。オンラインアンケートを利用すると、グラフ等で瞬時に回答結果が共有できるので便利である (なお、オンラインアンケートの結果は、Stage Activity 2 での発表練習にも使える)。

資料映像を活用したリスニング (大意把握)



資料映像



オンラインアンケート例 (※)

2. 会話でのターゲット構文導入

①会話の大意を理解する質問を投げかけ、そこに注目して Preview (字幕なし) を視聴させる。

例) “What are they talking about?” / “What did Meg find yesterday?” (※テキストの質問でも良い)

教科書の指示に従って、わかったことを伝え合う (ペアで確認→クラスで共有)。

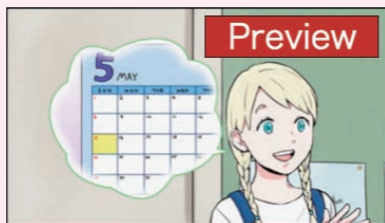
② Preview Plus (字幕つき) でオーバーラッピング練習を行い、音と文字を結びつける。

●音身に合わせて文字色が変わるので (図を参照)、スローラーナーでもついていきやすい。

●必要に応じて対訳も示し (ワークシート例を参照)、意味を浮かべながら声に出すよう指導したい。登場人物になりきって発音するよう促す。

●全体練習、個人練習、ペア練習のいずれか、または組み合わせで複数回練習させると良い。

Preview/Preview (Plus) を活用したリスニング・スピーキング
字幕なし動画 (Preview) と字幕つき動画 (Preview (Plus)) の切り替えが簡単で、レベルや進度に合わせて、様々なアレンジした活動が行える。



字幕なし動画 (Preview)



ワークシート例 (※)



字幕つき動画 (Preview (Plus))

(東京書籍 2年 pp.21-22 デジタル教材)

③ Preview (字幕なし) で空所補充 (リスニング) を行い、細部を確認する。ワークシート例では大意把握のキーワードを抜いてある。

●②③の順序を入れ替えても構わない。

●②③で会話内容と音声になじんできたなら、when/because の文に注目してリピート練習等も行う。

●様々な練習をした後に、聞き取りを確認するための空所補充タスクを行うのも良い (音声変化により聞き落としが起こりそうな箇所や、ターゲット構文に関わる箇所を空所にする)。

④ Preview (字幕なし) でシャドーイング練習を行い、流暢性向上を目指す。

●時間やレベルによるが、②の練習後に行うと良い。

●登場人物になりきって発音するよう促す。映像を見ながらの発話は、英文とそのコンテキストを結びつけるのに最適である。

●難しければ空所つきのワークシートを見ても良いことにするなど、レベル差に配慮したい。

⑤ Preview (字幕なし) でのシャドーイング練習をペアで行う。

片方が Preview を見てシャドーイング、相手は Preview (Plus) を見てチェックする。

●「スピードについていけていた」「なりきって発音していた」などの項目を書いたチェックシートがあると良い (自習課題としても利用しやすい)。

●ペアで何度かトライさせると、初回より伸びたという実感を持ちやすい。



3. パート学習: 本文内容理解と音声トレーニング

スラッシュ・リーディング (リピート & オーバーラッピング) を行い、内容把握と英語音声の習熟を狙う。難易度を段階的に上げていくと良い。

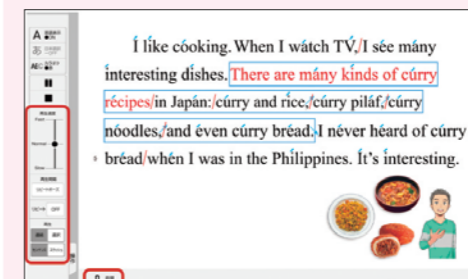
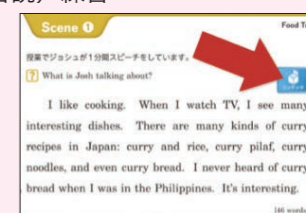
(1) 再生間隔を「リピート」に設定し、「選択」再生して (図を参照)、スラッシュごとに繰り返しながらコーラスリーディング。スラッシュごとに、英語音声と意味を結びつける (口頭でサイトラ風に確認するか、上記ワークシート例のような形で対訳版を配布する)。

(2) 再生間隔を短くして (5段階)、「連続」再生しながら、オーバーラッピング練習。

(3) 再生速度を「Fast」に設定をしてオーバーラッピング。流暢性向上の練習だが、意味を浮かべながら声を出すことを徹底させる。

コンテンツを活用したスピーキング (音読) 練習

再生速度 (速め・普通・遅め)、再生間隔 (リピート用の間隔の有無など)、再生 (連続再生か選択箇所の再生か)、スラッシュの有無、音調記号の有無を設定でき (図を参照)、英文の音声と意味を結びつける様々な活動が行いやすい (以下、活用事例を参照)。



本文コンテンツの再生設定: 「リピートポーズ」有り・「選択」再生・「スラッシュ」有り・「音調」記号有り

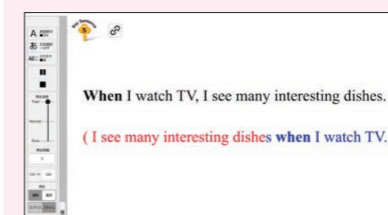
4. パート学習: ターゲット構文の理解・練習

(1) 簡潔に構造と意味を解説するか、意味確認後に構造に気づかせる。

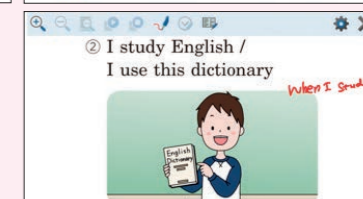
(2) Key Sentence のコンテンツを利用し (「リピート」再生・「選択」再生がお勧め) リピート練習とオーバーラッピング練習を行う。

(3) Practice で構文の練習を行う。練習問題ごとに拡大表示ができる。ランダムに問題を表示して瞬発力を鍛える練習なども行いやすい。

コンテンツを活用した音読練習と拡大表示の利用



Key Sentence コンテンツ



Practice 拡大表示 (書き込み可)

(同 pp.22-23 デジタル教材)

事例1 本文コンテンツを活用したターゲット構文練習

本文コンテンツの再生設定を「リピート:ON」、「選択」再生、「センテンス」単位の再生にすることで(図参照)、選択した文だけを繰り返し再生することができる。本文中の、ターゲット構文を使った文に注目させ、口頭練習を行うのに非常に便利である。

- 「リピートポーズ有り」から「なし」まで再生間隔を段階的に変えて練習させると良い。
- タイミングは、上記4「パート学習:ターゲット構文の理解・練習」の前が最適である。



(東京書籍2年 p.23 デジタル教材)

事例2 New Wordsコンテンツの活用

新出単語のコンテンツも、本文コンテンツと同様に様々な設定が可能であるが、ここでは「英語 ON/OFF」「日本語 ON/OFF」の機能の利用について紹介する。

- 図のように、「英語 OFF」「日本語 ON」の設定にして「連続」再生することで、日本語から英語を素早く想起する練習が行える。
- 英語 ON・日本語 ON で練習した後、「英語 OFF」に変更し、速度を上げていきながら手軽にテンポよく反復練習ができる。
- なお、「英語 OFF」の場合、図のように、1語ずつ、音声に合わせて表示される。

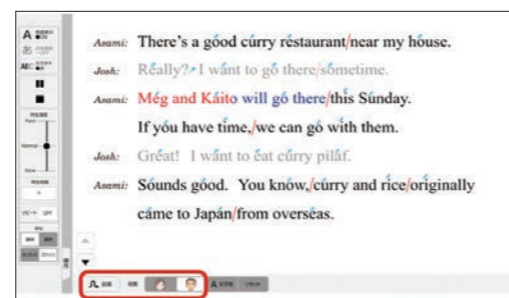


(同 p.24 デジタル教材)

事例3 本文コンテンツを活用した個人練習/ペアワーク

本文コンテンツを活用したスラッシュ・リーディング(リピート&オーバーラッピング)は、内容を確認した後に、個人練習としてもペアワークとしても行える(上記3も参照)。

- 流暢性向上のためのオーバーラッピング練習を個人ないしペアで行う場合、時間制限を設けるなど、目標設定を行うと良い。
- 一斉の個人練習は、周りが騒がしくなるため声を出しやすい環境である。
- ペアワークの場合は、片方をチェック係にする。「スピードについていっていた」「なりきって発音していた」など評価し合う形にして何度かトライさせると、初回より伸びたという実感を持ちやすい。



(同 p.24 デジタル教材 「役割」表示: Josh 役)

- 会話文の場合は、ペアで役割練習もできる。個人端末で、それぞれの役割表示(図を参照)を切り替えながら交代して練習する。

上のような練習に加えて、自作のワークシート等を利用して日本語のフレーズから英語を再現するペア音読を行うと学習効果がさらに高まる。図のワークシート例は、自分のパートだけを見るよう折って使うタイプである。このペアワークはフレーズを素早く再現する練習である。ペアの相手が英語に詰まったら、すかさず次の1語をヒントとして与えるよう指導する(事例4参照)。

Slash Speaking: Japanese to English
★半分に折って使います。
★赤字は相手の英語でトレーニングするフレーズです。相手が終わったら、すぐに最初の1単語を言ってあげましょう。

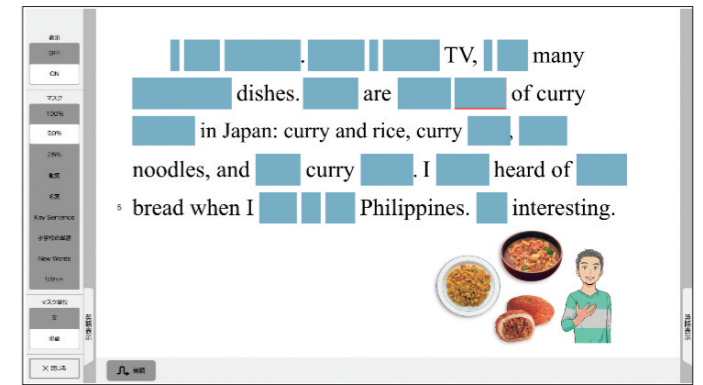
Speak as Asami & help Josh	Speak as Josh & help Asami
A: 美味しいカレー屋さんがあるの? / near my house.	A: There's a good curry restaurant / near my house.
J: Really? I want to go there / sometime.	J: 本当? そこに行きたいな / sometime.
A: Meg and Kaito will go there / 今週末の日曜日。	A: Meg and Kaito will go there / this Sunday.
J: あなたに一緒に行かして / we can go with them.	J: If you have time, / we can go with them.
J: Great. I want to eat curry pilaf.	J: いいね。カレーピラフが食べたいよ。
A: Sounds good. You know, / curry and rice originally 日本に渡った / from overseas.	A: sounds good. You know, / curry and rice originally came to Japan / from overseas.

ペア音読ワークシート例(※)

事例4 本文コンテンツを活用した一斉クローズ・リーディング

本文コンテンツの「マスク」機能を使うことで、空所の英語を再現するクローズ・リーディングを手軽に行える。

- ①全体練習の場合
 - 音声と意味の結びつきを強めるため全体活動であり、本文の内容を確認した後に行う。
 - マスク機能で単語を隠した状態で音読させる。図のように、25%、50%、動詞のみ、名詞のみを隠すオプションがある。
 - 再生間隔・再生速度の設定を変えて、難易度を徐々に上げながら複数回練習する。
 - 最後は音声なしで(ミュートにして)トライさせる。



マスク機能:「50%」隠した場合
(同 p.23 デジタル教材)

- ②個人練習の場合
 - 隠す割合や、再生間隔、再生速度の設定を各自に任せて、徐々に難易度を上げてチャレンジするよう促す。
 - チャレンジ項目をリストにしたチェックシートを用意すれば、家庭学習課題としても与えやすい。
- ③ペアワークの場合
 - ペアワークでは、全体練習の後、音なしで、片方にチェック&ヒント係を割り振る。
 - 音を出さないで、教員がタイム・キーパーになり、制限時間内に終わるよう挑戦させる。
 - 係を交代しながらテンポよく複数回練習を行う。
 - ペアの片方(挑戦者)のみマスクで単語を隠し、チェック&ヒント係はマスクなしにする。隠す割合は各自に任せる。
 - 意味内容も踏まえて、英語表現を素早く再現できることが重要。チェック&ヒント係は、挑戦者が詰まったらすかさず次の1語を与え、間違ったら即修正する。うまく再現できたら褒める。
 - チェックシート等を用意すると、目標に向けて練習する意識づけに役立つ。

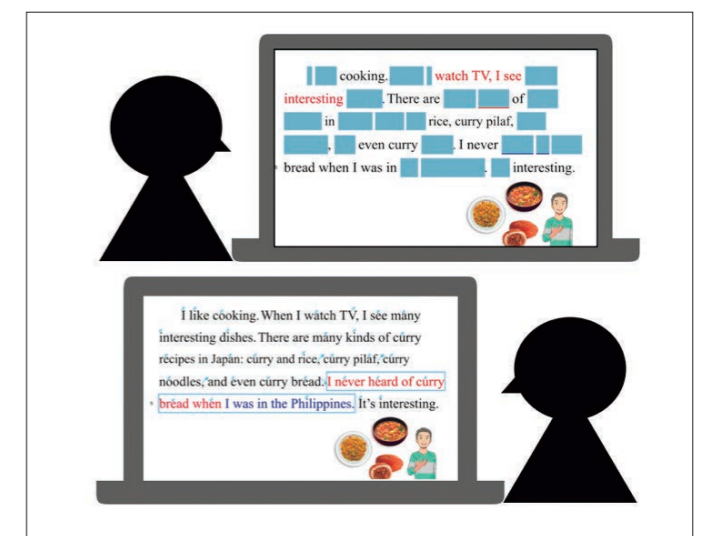
Cloze Reading Check Sheet

★意味を浮かべながら、英語表現を再現しよう!
★制限時間内に終わりましたか?
★チェック&ヒント係は、挑戦者が詰まったら、即、次の1語をヒントとして出しましょう!

	0% 伸び代しかない!	50% Good Try!	100% Amazing!
50% マスク			
25% マスク			
動詞 マスク			
名詞 マスク			

チェック&ヒント係から一言 _____

ペアワーク用チェックシート例(※)



挑戦者はマスク機能利用:チェック係はマスクなし
(同 p.23 デジタル教材)

2年 【資料映像】を活用した統合学習 東京書籍

本時のねらい

各 Unit に用意されている【資料映像】は、Unit のトピックに関連する映像・ナレーション・インタビューをドキュメンタリー仕立てにまとめた動画資料である。上記「スタンダード1. テーマ導入」のように、テーマへの興味関心を高めるための活動だけでなく、ドキュメンタリーの内容理解をメインとした発展的な活動にも活用したい。Unit 2 の資料映像 Food's History を例に活動例を紹介する。

●学習活動（学習形態，学習活動内容）

1. 資料映像の内容を理解する

- Read & Think 1, 2 の後の発展的活動として行う。
- わかったことを視覚的にまとめるワークシートなどを配布すると内容理解の助けになる。ワークシート例では、Unit 2 の Food's History で紹介される二つの料理について、情報を対比させながらまとめる形にしてある。



資料映像

Food's History		
Watch the video and complete the table. 動画を観て表を完成させよう。		
Don't fill!	First	Second
When was it born?	In the () era	In the () era
Where did it originate?	In () (Japan / France / Italy)	In () (Japan / France / Italy)
Who first made it?		
What ingredients were used?		
Why did the chef make it?		

ワークシート例（※）

【資料映像】は Unit の扉ページからアクセスする。字幕あり／字幕なしの選択が可能である。

活動オプション1 ペアワーク／グループワーク

ペアないしグループでわかったことをまとめながら観る。観る場所を分担したり、語句を教え合ったり、内容理解について意見交換するなど、協働学習を促す。

活動オプション2 ジグソー活動

- ①一つめの料理と二つめの料理に分け、それぞれに集中的に取り組むグループを作って「エキスパート」活動を行い、
- ②それぞれのエキスパートを集めて再編したグループで、わかったことをシェアしあう「ジグソー」活動を行う、という展開が考えられる。

活動オプション3 ジグソー活動（英語使用重視型）

上記①の協働学習（エキスパート活動）や②の情報共有（ジグソー活動）の際に英語をできるだけ使うよう促す形で実施することも可能である。

- ①エキスパート活動：意味確認などで使える表現集（How do you say X in Japanese? / I'll look it up / What is X? / I agree. / Do you think ~? など）をワークシートに追加し、練習もやっておくと良い。
- ②ジグソー活動：ワークシート例のように、情報整理のための質問が英語で書いてあるものを持っているため、原則「英語でQ&Aを行うこと」をルールにしても良いだろう。

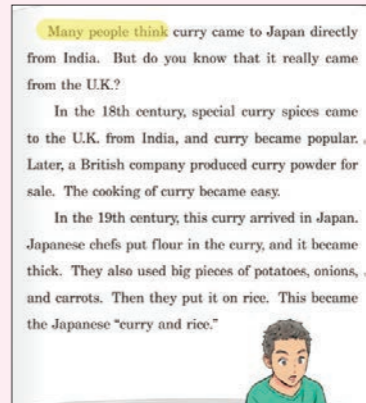
なお、①②ともに、リアクションに使える表現（I didn't know that. / Interesting! / Got it! など）を普段から練習しておくことで「やりとり」に活気が出やすくなる。

（東京書籍2年 p.21 デジタル教材）

2. 資料映像からわかったことを英文でまとめ、発表準備をする（グループワーク）
以下（1）～（3）の作業を分担して行う。

（1）Read & Think 1, 2 を参考にして、100 語程度の英文でまとめる。

- Read & Think 2: “Here are some others.” のように、いくつかの事例を挙げていくことを予告する。本文では2例だが、これにならって最低3つの料理を紹介する。
- Read & Think 1: “Many people think ~. But ~.” のパターンを使って、興味深い点を強調する。また、本文にならって、出来事を時系列に並べる。

Read & Think 1
（マーカー利用）Read & Think 2
（マーカー利用）

（2）並行して、資料映像を見直したり、Web 検索も利用しながら、興味深い追加情報や、発表内容をわかりやすく伝えるための写真や地図などの視覚資料を集める。

（3）パワーポイント等を用いて（1）（2）をスライドにまとめる。紙を利用して紙芝居風にまとめても良い。

（4）聴衆に「話しかける」ように発表できるよう、発表練習の時間も充分に取りたい。

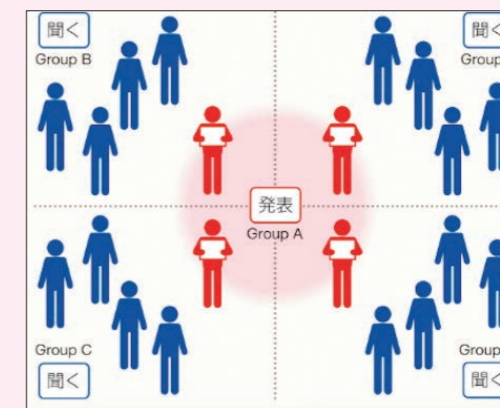
3. ポスターセッションと振り返り

（1）作成したポスターを使って発表を行う。

ポスターセッション①：教科書 p.96 のポスターセッションのやり方に従う（図参照）

ポスターセッション②：「ポスターツアー」形式で実施する。ジグソー法のやり方で、異なる発表の準備をしたグループ（エキスパート）から1人ずつ集まって、その新たなグループ内で全員が発表し合う（ジグソー）。

※この形式の場合は、デジタルのポスター（パワーポイントスライドなど）が必要である。

ポスターセッションのやり方
(Stage Activity 2, p.97)

（2）コメントシートを用意し、聞き手は、発表内容や発表の仕方についてのコメントやアドバイスをコメントシートに記入する。

（3）コメントシートをもとに、自身の発表を振り返る。

（同 p.26, p.28, p.97 Stage Activity 2）

事例1 Stage Activity 3の会話例で帯活動

Stage Activity 3のテーマは“My Favorite Place in Our Town”である。3つあるStage Activityの最後のものだが、テーマが身近なので、会話例部分を利用して自己表現の帯活動が行える。帯活動として反復して練習することで、実際にStage Activityを行う頃には、会話パターンになじみ、自分の「持ちネタ」も増え、情報交換に重きを置いたコミュニケーションが可能になっているだろう。

(1) 準備：コンテンツを使って、音読練習を行う。

- スタンダードな活用で扱った本文コンテンツと同様に、再生設定を変更しながら、音読練習を行う。
- 対訳を示しつつ、「意味を浮かべながら口にだす」ことを強調する。
- 特に初期は、授業外でもしっかり自主練習を行うよう指導する。

(2) 準備：一部を変えて「自分の話」にする。

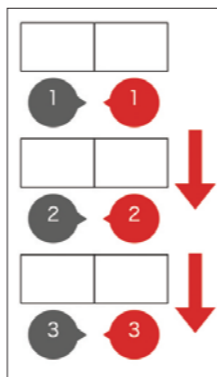
- Bの最初のセリフのうち、Cafe Wakabaを実際に自分の好きな場所に置き換える。
 - Bの2番目のセリフ全体を、自分の理由に置き換える。
- ※「多くの人を訪れる場所」という設定は変えずに、受動態の表現は全体の意味だけ確認してそのまま使う。

(3) 帯活動：A・Bの役を交代しながら、時間制限トークを行う。

- 同じ相手と同じトピックで話すという事態を避けるために、ローテーションしてパートナーを変える。
- 横ないし縦の2列ずつをペアにする。
 - A・Bのパートを1回ずつ話したら、片方の人が1人分ずれる。図では赤でマークしている。
 - 別の相手とA・Bのパートを1回ずつ話す。これを3～4回繰り返す。
- ※時間制限ありなので、「終わらない」ペアも出てくるが、繰り返すと、たとえ終わらなくても、初回よりは確実に流暢になる。
- ※時間制限は、最初は短めにして「終わった」ペアに拍手、というやり方が良い。だんだんと流暢性が増し、話せる内容も増えてきたら、長めの時間設定にして「その時間話し続ける」ことを目指させても良い。



(東京書籍 2年 p.118 デジタル教材)



事例2 ディクテーション(個人学習)

Preview 動画や資料映像を字幕なしで観て、「リスニング+再現」の練習を行う。「再現を通じて表現の細部にもフォーカスする」活動は、Unitの復習として実施する方が良い。

- 1単語ずつ正確に書きとろうと細かく止めながら聞くのではなく、「セリフ全体の意味を理解し、それを再現することを目指す」。※繰り返し聞くのは2～3回で止める。全く書き取れない場合は、この練習はせずに、音読練習をした方がいい。
- 一通り書き終わったら、字幕つき動画で再現度をチェックする。

事例3 ディクトグロス(ペア/グループワーク)

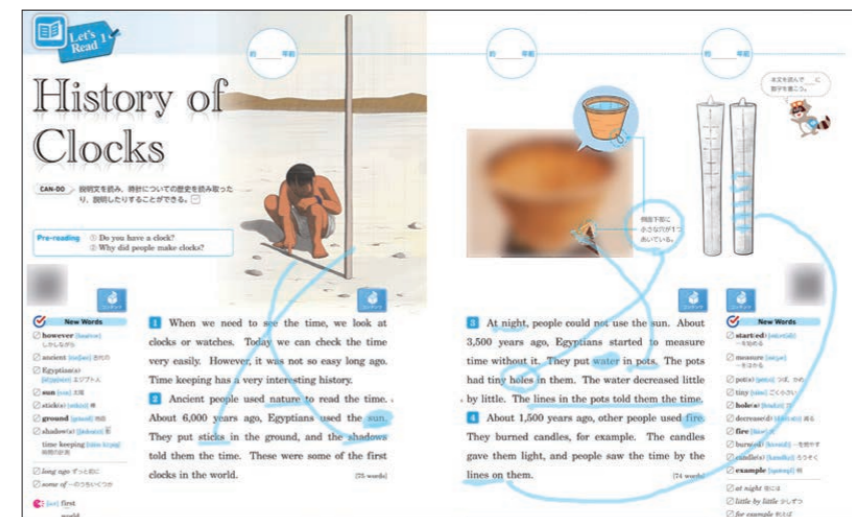
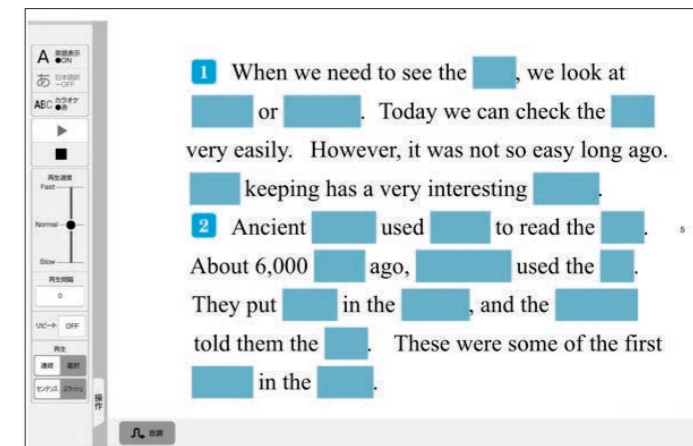
デジタル教科書の音源は、リスニング活動に活用しやすい。教科書の設問に答える大意把握だけでなく、適宜、細部にもフォーカスする活動を行い、インプット力、アウトプット力を鍛えたい。

- (1) ペアまたは4人グループを作りメモの用意をさせる。
 - (2) 音声を聞きながら、内容を再現するのに必要なメモをとる(英語でも日本語でも良い)。
※聞かせる回数は2回程度にし、全文を「書きとる」活動ではないことを強調する。
 - (3) メモをもとに話し合いながら文章を再現する。教え合いを通じて文法や語法の深い理解と定着が期待できる。
 - (4) 復元した内容をシェアし、表現を確認する。
- ※ディクトグロスでは、内容がきちんと再現されていれば、表現が元の文と違っていても良い。いくつかの表現方法が出てくると面白い。
- ※ジグソー活動にすることで、復元内容をシェアする活動がより深い学びにつながりうる。
- ※横のペアで(2)(3)の「エキスパート」活動を行った後、縦のペアで(4)の「ジグソー」活動を行うと、手軽にジグソー法が実施できる。

事例4 Let's Readで再現練習(個人練習)

分量が多めの英文を聞いたり読んだりして、その内容全体を保持できる力も重要である。Let's Readのコンテンツを使って、この力を鍛える練習が手軽に行える。※Let's Readは通常のレッスンより分量が多く難易度が高いため、万人向けの活動ではない。

- (1) じっくり取り組んで、全体の内容を理解する。
図のように挿絵と英文を結びつけるのは良いアイデア。
- (2) コンテンツを表示し、マスク機能で一部を隠して一通り聞く。
- (3) 内容を思い出しながら、ノートなどに隠された単語を書き出す。
- (4) マスクを外して再現度をチェック。



内容理解を助ける書き込みをした様子
(同 pp.52-53, p.52 デジタル教材)